

表紙のことは

井戸田良子「てんとう虫」

脳梗塞で左麻痺になり10年。まったく感覚がなく、3日後に左半身に電流が流れ、手の親指がピクッと動いたのが合図のように希望が持てました。ある日突然、紙1枚持てぬ。物差しで線も引けぬ自分に対し悔しさがありました。自分への挑戦を覚悟し、毎日リハを繰り返すうちに、いつの間にか切絵を作品として完成できるようになりました。発症以来、多くの方々に励まされ、創作を続けてきました。

現在は墨田中央クリニックで機能を維持するため、外来リハに通っています。マイペースの散歩と趣味となった切絵に没頭する時間は大切です。材料となる折込みチラシを切って貼ると色が変わるおもしろさと意外性で続けております。今回、私の作品が表紙を飾ることを聞き、短歌に致しました。

「選ばれし本の表紙に我切絵

コロナ禍の世にファイト湧く夏」



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



川崎 勇「初めての飛行前」

私は3年前脳出血で倒れ、右半身麻痺の身体になり、病院では、よくなっても車いすでの生活だろうと言われました。5カ月の間休むことなくリハを続けた結果、足に装具を着ければ杖をついて歩けるまじになりました。まだまともな歩きではありませんが、今では町内を3~4時間歩いています。

絵を描くことも2年前から始めて、300枚以上描きました。この蝶の絵は10年前に庭で羽化したまま力尽きた蝶が綺麗だったので標本にして残してあったのを思い出して、絵の中で飛び立ってほしいと思い描きました。

「きれいな空へ力強く飛んでいけ」